



### 南京の二つの学会に参加して

副学院長 勝本 海詠

十月二十四日から十一月四日までの十二日間の長旅でしたが、本草薬膳学院にとつては意義のある旅行でありました。

張文彦先生の経営する北京応用技術大学飯店旅遊学院では、来年春節以降をめぐりにホテルやレストランに勤めているプロの料理人を対象に日本料理の勉強会をしたいということでの指導者派遣要請を受けました。中国側と本草薬膳学院の修了証を出すことにより、職人の技術向上はもちろん、二年後の北京オリンピックに向けての準備とも受け取れましたが、両校の発展と友好に役立つことには間違いのないと思います。

十月二十八日の南京自然医学会主催の飲食健康国際学術論壇は、去年に引き続き参加したのですが、今年は劉学院院长が「五気風邪の食療」について発表されました。他に日本からは大島政文先生が富山薬膳研究会の運動状況について論文提出がありました。各国代表の発表論文はパワーポイントを使って写真や図を駆使して興味深いもので、言葉が分からないにもかかわらず、イラストや統計の数字を見ているとぼんやりと理解でき、その後劉先生から補足して説明を受けると内容の濃い学会であることを実感致しました。特に私が関心あったのは発芽玄米の製造についての報告と去年南京軍医南京総院を見学させていただいた時の栄養科のスタッフの糖尿病、腎臓病の栄養調査の報告でした。

十月二十九日には南京中医薬大学に移動し中国南京全球健康頤年高峰会の開会式に出席しました。大ホールは一杯で中国中医



薬管理局のトップや南京市の副市長や衛生局長などの有名な医師達が挨拶をし、大会を盛り上げていました。午後からは台湾、香港、イギリス、アメリカ、カナダ他十七ヶ所の地域から来た人たちが五分ずつ論文発表をし、学生から八十才を越える人まで参加していました。本校学長も演者の司会を急に指名され活躍いたしました。

両学会からは来年是非、日本で大会を開催して欲しいとの要請を受けました。中国で本草薬膳学院が薬膳の専門校として広く認識されていることに責任を感じました。皆で協力して日本の薬膳意識を高めるためにも開催できるよう、やってみましよう大学院長と話し合い帰国致しました。正式にそのはこびとなった時には学院をあげて協力しましょう。

劉先生の通訳には定評がありますが、これからの薬膳の発展の為に語学の力も大切だと痛感しています。

### 本草薬膳学院 2006 年度年間予定



1月	8日	3期生実力テスト
2月	5日	3期生卒業式
	春節後	北京技術応用大学飯店旅遊学院へ講師派遣予定
3月		国際薬膳師(士)試験対策特別講座
		中国薬膳美食文化祭(場所:山東省 済南)
4月	第2土、日	第5期生入学(毎月2回 1年間修了コース)
	第3木曜	第5期生入学(毎月1回 2年間修了コース)
	22、23日	国際薬膳師(士)資格認定試験
5月	下旬	国際薬膳師(士)合格証書授与式
6月		韓国薬膳と薬膳茶研修旅行(本草薬膳学院、国際茶藝会合同)
7月	28,29,30日	夏期スクーリング
8月	6~10日前後	国際薬膳食療学会・薬膳の旅 (場所:雲南省麗江・シャングリラ・シーサンパンナ・ロコ湖)
9月		
10月		国際中医師資格認定試験
	最終週日	国際健康学術シンポジウム(場所:東京) (中国国家中医薬管理局台港澳交流センター、本草薬膳学院、日本国際薬膳師会)

# 5期生募集中

